

二〇三三年一月一日

水草を突つ切る鴨に続く鴨
この家の永き歲月木守柿
陵王の舞や冬日にとんと跳ね

二〇三三年一月九日

跡継ぎの居らずと嘆く老菊師
一茎の菊手折りきし朝餉卓
養生の千年櫟冬に入る

二〇三三年一月八日

青空へ銚立つ公孫樹黄葉かな
巨人なる己が影打つ冬田かな
菰巻かれ蝦夷の庭木の逞しき
塵取りに色とりどりの散紅葉

二〇三三年一月七日

長き夜の戦火のテレビニュースかな
秋惜しむ酒蔵はいま資料館
門川に鯉の涼しき屋敷町
寄り来たる一会の人と椎拾ふ
鬼ごつこの鬼抜け出せず秋日落つ

二〇三三年一月六日

ワイパーが落とす朝露ナビ始動
園丁の担ぐ落葉の大袋
秋桜の広場出発集団登校子
切りなしと落葉掃き笑む好々爺

うつぎ

千鶴

なつき

なつき

きよえ

小袖

ぽんこ

澄子

むべ

康子

あひる

こすもす

康子

せいじ

なつき

豊実

うつぎ

こすもす

はく子

二〇三三年一月五日

冬の朝あつあつコーヒー遺影にも
椎の実を見せ合ひ俳諧語りかな
幼子とどんぐり拾ふ秘密基地
玻璃杯に富士を透かせて今年酒
荒鋤に尖がりし土や山嵐

二〇三三年一月四日

カメラマン翡翠待ちて身じろがず
耳遠きふたりの会話縁小春
真つ白な幡並び立て在祭
古書店のあるじ舟漕ぐ小春かな

たか子

うつぎ

もとこ

康子

みきお

あひる

明日香

うつぎ

かえる

毎日句会みのる選・二〇三三年一月二日